

第 8 期

第 2 四半期報告書

(平成 13 年 10 月 1 日 ~ 平成 13 年 12 月 31 日)



平成 14 年 2 月 1 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

当期の業績の概況

(1) 損益の状況

損益計算書 (単位：千円)

	前年度 第2四半期 H12.10.1～ H12.12.31	前年度 第3四半期 H13.1.1～ H13.3.31	前年度 第4四半期 H13.4.1～ H13.6.30	今年度 第1四半期 H13.7.1～ H13.9.30	今年度 第2四半期 H13.10.1～ H13.12.31	前年同期比
売上高	15,567	12,580	23,916	44,873	32,785	211%
営業費用	26,327	22,830	28,626	38,940	48,236	183%
営業損益	10,759	10,250	4,709	5,932	15,450	143%
営業外収益	181	501	1,669	457	9	
営業外費用	1,329	2,085	2,380	2,231	2,232	
経常損益	11,908	11,833	5,420	4,158	17,673	148%
特別利益	-	-	-	-	-	
特別損失	-	-	-	-	-	
法人税等	-	-	770	160	-	
当期損益	11,908	11,833	6,190	3,998	17,673	148%
前期繰越損益	-	-	74,659	103,273	103,273	-
当期末処分損益	-	-	103,273	99,275	116,949	-

期中平均 発行済株式総数	4,980株	4,980株	5,585株	5,620株	5,620株	-
1株当たり当期損益	2,391円	2,376円	1,108円	711円	3,144円	-
潜在株式調整後の1株当たり当期損益				674円	-	-

売上は前年同期に比べ倍増しましたが、当四半期の損益は17,673千円のマイナスとなりました。

(2) 営業損益の部門別内訳

(単位：千円)

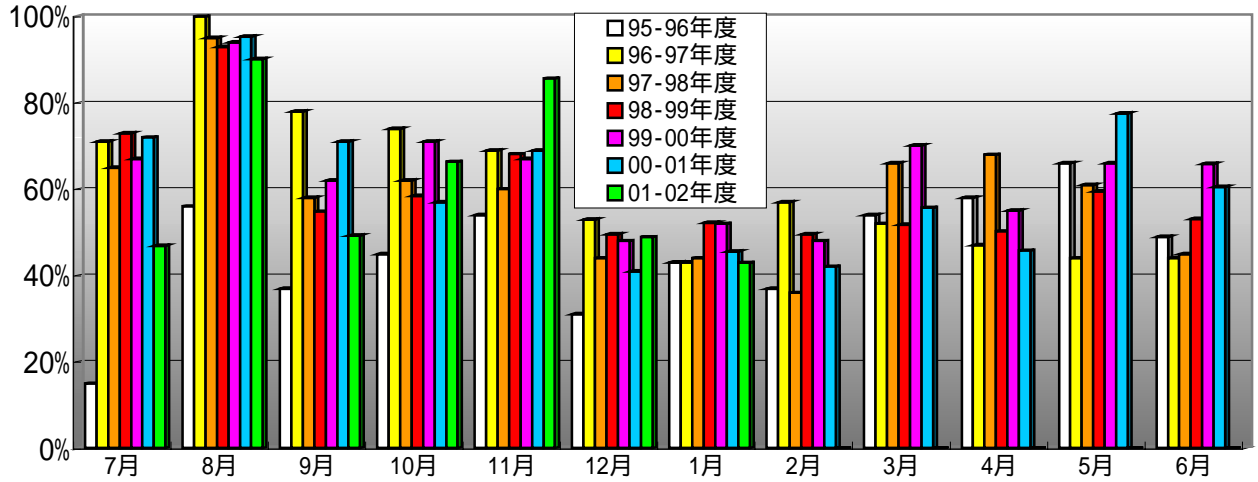
当社では、部門別の損益状況を把握するため、営業外収支を含め、すべての取引を部門別に分解して仕訳しております。

	本社	鬼怒川店	那須店	秋田六郷店	山中湖店	沼田店	水戸大洗店	全社合計
客室稼働率	-	66.8%	48.8%	46.6%	46.7%	67.6%	25.7%	-
客室単価	-	7,566円	9,094円	7,156円	8,721円	7,920円	9,138円	-
室料売上	-	8,829	4,901	3,678	5,250	5,908	2,595	31,162
室料外売上	536	703	207	49	54	45	25	1,622
売上合計	536	9,533	5,108	3,727	5,304	5,953	2,620	32,785
(償却前)費用合計	12,293	6,699	4,246	3,729	3,890	5,755	5,070	41,686
(償却前)営業損益	11,756	2,834	862	2	1,414	198	2,450	8,900
(償却後)営業損益	11,997	777	365	1,448	142	50	2,609	15,450
経常損益	13,173	768	722	1,448	549	50	2,599	17,673

「沼田店」はオープン初年度ながら稼働率が急進し、経常利益を計上することができました。10月1日オープンの「水戸大洗店」を除き各店舗の業績はおおむね好調で、全社売上高もほぼ業績予想(達成率99.5%)どおり推移しましたが、店舗管理スタッフの増強など本社経費の増大により、当四半期の経常損失は前年同期を大幅に上回る結果となりました。

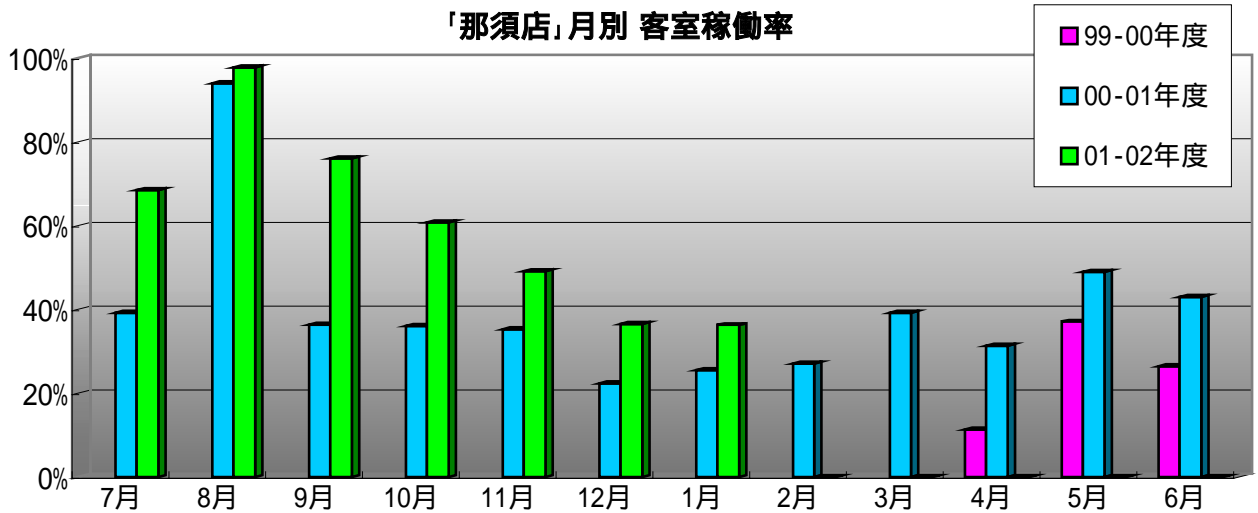
(3) 各店舗の客室稼働率の推移

「鬼怒川店」月別 客室稼働率



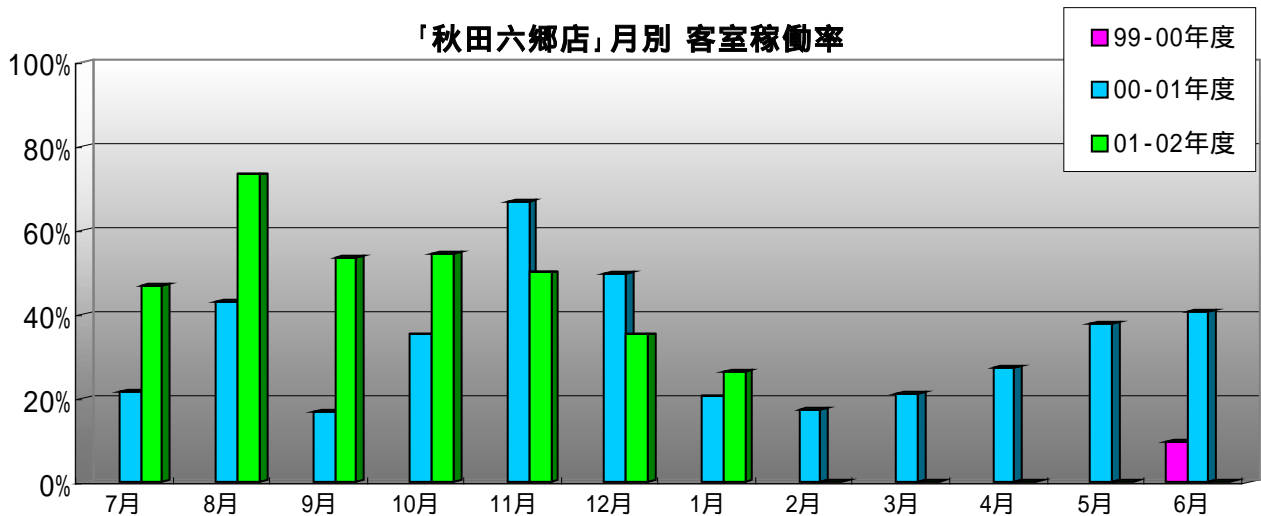
第1四半期は前期を下回りましたが、当四半期はいずれの月も前年を上回っております。

「那須店」月別 客室稼働率



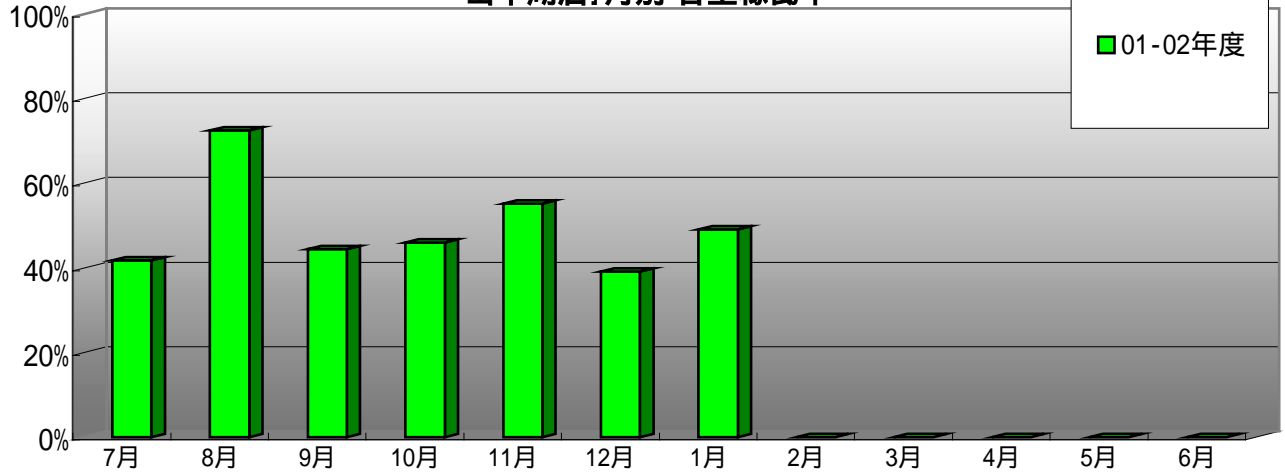
オープン2年目に入り、引き続き、前年を大幅に上回っております。

「秋田六郷店」月別 客室稼働率



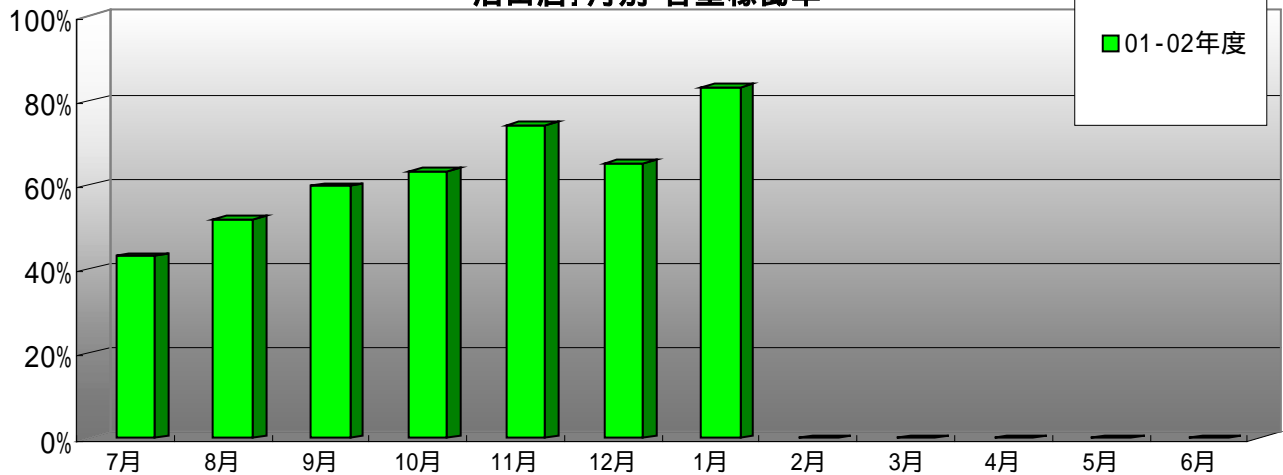
前年の10~12月は、近隣で店舗の改築工事による特需があったため、当四半期は前期を下回りましたが、稼働率は堅調に推移しております。

「山中湖店」月別 客室稼働率



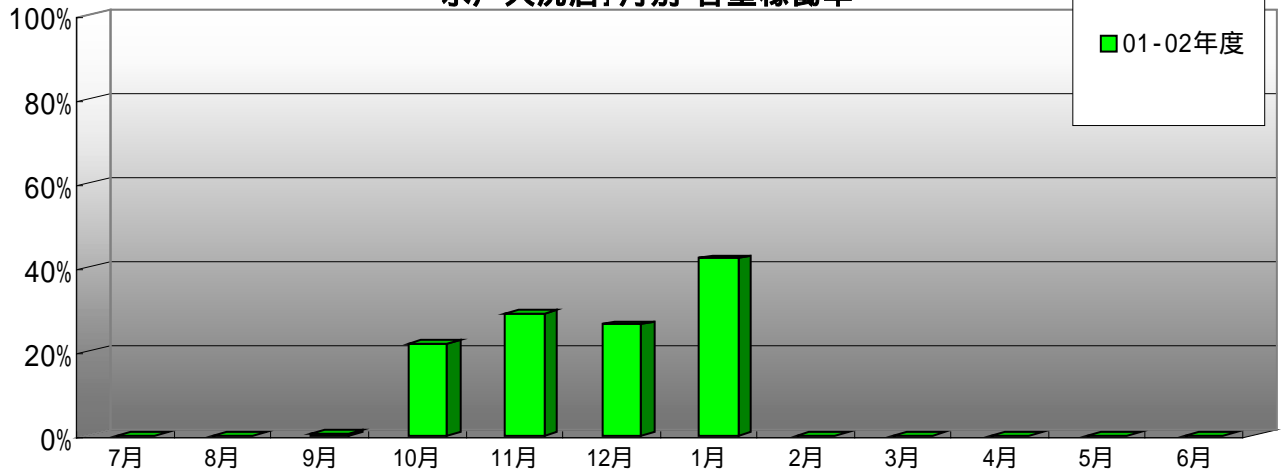
オープン初年度としては順調な滑り出しですが、冬季の落ち込みは避けられないと予想しております。

「沼田店」月別 客室稼働率



ひじょうに好調です。ビジネスのリピーターが急増し、スキー客も多いので、冬季の落ち込みもないと予想しております。

「水戸大洗店」月別 客室稼働率



シーズンオフのオープンであったため勢いはありませんが、少しずつ利用者が増えつつあるため、今後は着実に伸びていくと予想しております。

(4) 財政状態の状況

貸借対照表 (単位: 千円)

	前年度 第2四半期末 H12.12.31	前年度 第3四半期末 H13.3.31	前年度 第4四半期末 H13.6.30	今年度 第1四半期末 H13.9.30	今年度 第2四半期末 H13.12.31
(資産の部)					
流動資産					
現金預金	68,437	12,078	27,656	36,220	22,043
その他	230	56	1,774	366	394
流動資産合計	68,667	12,135	29,430	36,586	22,437
固定資産					
有形固定資産合計	294,661	347,671	370,444	411,240	413,221
無形固定資産合計	1,219	1,174	1,130	3,512	3,467
投資等	7,025	6,916	11,154	11,045	10,936
固定資産合計	302,905	355,762	382,729	425,799	427,625
繰延資産	4,880	4,106	3,967	3,067	2,168
資産合計	376,453	372,003	416,127	465,453	452,231
(負債の部)					
流動負債	15,295	16,987	17,770	25,355	24,490
固定負債	197,407	203,099	201,430	239,173	244,491
負債合計	212,703	220,086	219,201	264,528	268,981
(資本の部)					
資本金	249,000	249,000	281,000	281,000	281,000
資本準備金			19,200	19,200	19,200
剰余金					
当期未処分損益	85,249	97,082	103,273	99,275	116,949
(うち当期損益)	(10,590)	(22,423)	(28,614)	(3,998)	(13,675)
資本合計	163,750	151,917	196,926	200,924	183,250
負債資本合計	376,453	372,003	416,127	465,453	452,231
発行済株式総数	4,980株	4,980株	5,620株	5,620株	5,620株
1株当たり純資産	32,881円	30,505円	35,040円	35,751円	32,606円

(5) 財務諸表作成の基本となる事項

四半期財務諸表の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第四 経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の財務諸表作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。なお、当該四半期財務諸表については、公認会計士の監査証明を受けておりません。

固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生見積額の1/4に該当する金額を計上しております。

繰延資産の処理方法

各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の1/4に該当する金額を計上しております。

経過勘定項目

未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。

税金の計上基準

法人税および住民税・事業税・消費税は、計上を省略しております。

借入金等の表示

長期借入金および割賦未払金のうち1年以内返済予定額は、期末決算と同様に流動負債として表示しております。

(6) 会計方針の変更

該当事項はありません。

(7) 資金の状況

現預金の増減 (単位：千円)

	第2四半期 H13.10.1～12.31
期初現金預金残高	36,220
期末現金預金残高	22,043
四半期の増減	14,176

借入金が増減 (単位：千円)

	第2四半期 H13.10.1～12.31
期初借入金残高	252,527
期末借入金残高	257,719
四半期の増減	+5,192

借入金の増加は、11月に東京シティ信用金庫より10,000千円の融資を受けたことによるものです。なお、この資金は「鬼怒川店」の補修工事費などに充当いたしました。

当期の業績予想

当期の業績予想 (単位：千円)

	前期実績	当期予想				
	H12.7.1～ H13.6.30	第1四半期 実績 H13.7.1-9.30	第2四半期 実績 H13.10.1-12.31	第3四半期 予想 H14.1.1-3.31	第4四半期 予想 H14.4.1-6.30	当期通期 予想
売上高	80,450	44,873	32,785	30,828	35,165	143,651
経常損益	27,844	4,158	17,673	500	5,000	19,015
当期損益	28,614	3,998	17,673	500	5,000	19,175

売上高については、初期の予想どおり前期に比べ大幅増(79%増)が達成可能な見通しです。

経常損益については、店舗別に見ると「鬼怒川店」「那須店」「山中湖店」は黒字、「秋田六郷店」「沼田店」についてはほぼ収支均衡となる見通しです。「水戸大洗店」については赤字は避けられません。

当期損益については、本社経費が増加しているため、損失額の半減は困難で、前期に比べ約1/3の圧縮(32%減)となる見通しです。

今後の事業展開と出店計画について

統一したサービスポリシーの維持

「那須店」「秋田六郷店」が2年目に入って大幅に稼働率を上げていること、「秋田六郷店」「沼田店」など従来と異なるロードサイド立地の店舗が堅調なことなどから、「旅籠屋」の潜在需要の大きさと事業の将来性の実証されつつあります。ただし、散見される他社の類似施設が必ずしも好調でないことを考えれば、安易な楽観は慎まなければなりません。「旅籠屋」の集客の基本は、一過性の広告宣伝に頼るのではなく、利用者に気に入っていただきリピーターや口コミによる紹介が増えることにあると考えております。店舗数が増えても、常に「快適な泊まり心地」が維持されるよう、統一したサービスポリシーの維持と改善に努めていきたいと考えております。

ハード面では、建物のコンディションを維持するため、昨年12月、オープン後7年目となる「鬼怒川店」の基礎改良工事と一部塗装工事を行いました。短期的には収益拡大にはつながりませんが、今後も各店舗で必要に応じて実施していく予定です。

ソフト面では、本社に店舗管理部を設置して専任の担当者が監督指導を行う態勢を整備し、あわせて「店舗運営マニュアル」の見直し作業を開始いたしました。

費用の節減

店舗の売上高は計画どおり順調に伸びておりますが、収益性を安定向上させるため、各種費用の節減に優先的に取り組んでいるところです。

本社については、店舗数の増加にともなう支配人交代要員の確保などにより費用が増えておりますが、通信システムの変更、印刷依頼先の変更、広告媒体の絞り込みなどによる費用節減を進めております。

各店舗については、通信システムの変更、消耗品の一括購入を進めており、あわせて費用内訳の比較分析による総合的な見直しを計画しております。

店舗の集客

店舗数の増加による相乗効果もあり、稼働率は堅調に推移しておりますが、いまだに知名度は低く、潜在需要のごく一部しか開拓できておりません。最近「毎日新聞」や「日経流通新聞」などにも紹介記事が掲載されましたが、今後もこうしたパブリシティ活動を中心に最小限の費用で効率の高いPRを心掛け個々の店舗単位で確実に利益が計上できる基盤を整えていきたいと考えております。あわせて、「周辺案内」の改訂やホームページのリニューアルも進行中です。

新規出店の具体化

引き続き、「借上直営方式」での引き合いが頻繁に寄せられており、東京電力とも「沼田店」に続く2号案件の協議を行っております。いくつかの具体的な計画が進行中で、本年の夏までに複数の店舗をオープンさせたいと考えております。契約締結後ただちに発表させていただきます。

なお、昨年秋、専門メーカーから提案があり、建築コストの低減を図るため、工法全体の抜本的な見直しをスタートさせる予定です。

社内態勢の整備

従業員の増加に対応し、労働基準監督署との協議を経て「就業規則」を制定、健康保険についても政府管掌保険から業界の健康保険組合への加入手続きを行いました。

また、将来の株式公開に備え、取締役会規定などの会社諸規定の整備を進めております。

以上